

平成21年10月19日
原子力安全対策課
(2 1 - 4 8)
<17時00分記者発表>

大飯発電所2号機の原子炉の停止の決定について (1次冷却材中の放射能濃度の上昇)

大飯発電所2号機については、本年8月31日から燃料漏えいの監視強化を継続していたが、希ガス濃度の新たな上昇が認められたことから、県としては、先週より早急に原子炉を停止するよう関西電力に強く要請していたところ、本日、関西電力株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

大飯発電所2号機(加圧水型軽水炉;定格電気出力117.5万KW)は、定格熱出力一定運転中の平成21年8月31日に、1次冷却材中のヨウ素(I-131)濃度と希ガス濃度が、前回の測定値を若干上回ることが確認されたため、燃料漏えいの疑いがあると判断し、1次冷却材中の放射能濃度の測定頻度*を上げて監視の強化し、運転を継続している。

なお、この事象による環境への放射能の影響はない。

*:燃料ペレットを収納している燃料被覆管に、ごく僅かな漏えいがあると、燃料被覆管内のヨウ素や希ガスが1次冷却材中に放出され、その濃度が上昇する。このため、1次冷却材中の放射能濃度を測定し、その変化から漏えいの有無を判断している。

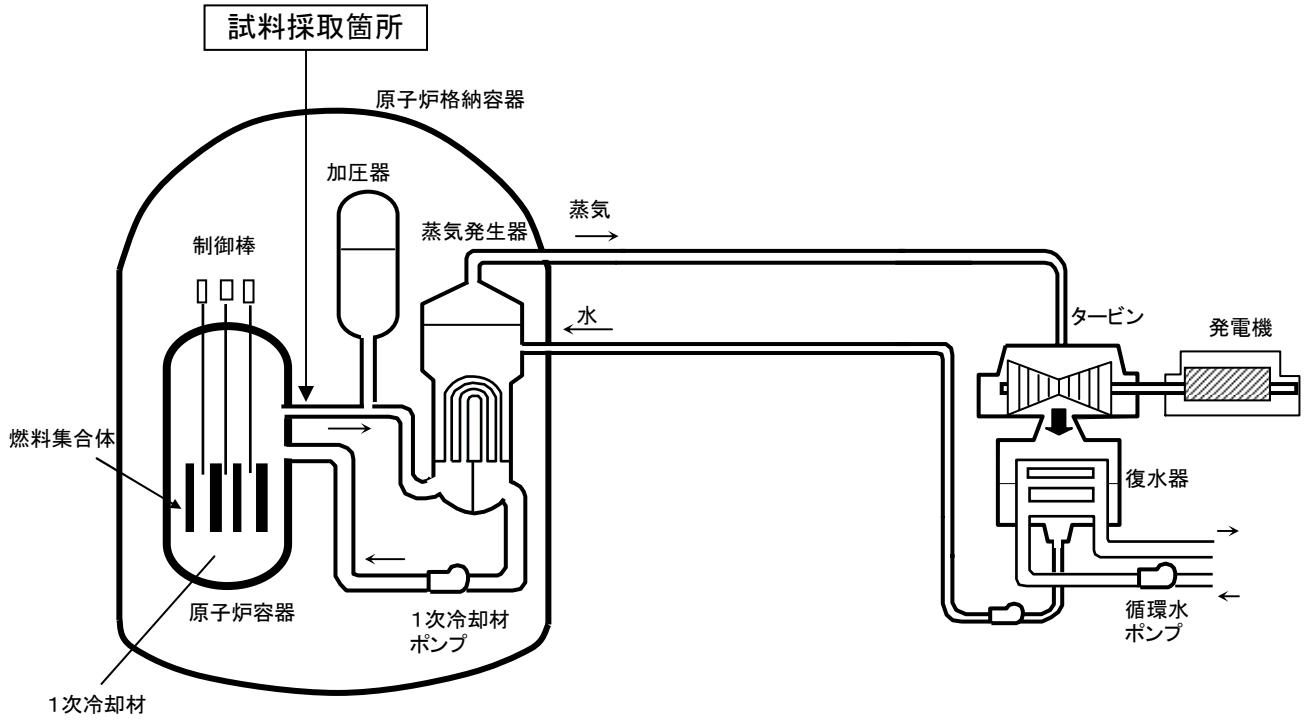
測定項目	定例測定	→	監視強化
ヨウ素濃度	3回/週	→	1回/日
希ガス濃度	1回/週	→	1回/日
全放射能濃度	1回/月	→	1回/週

[平成21年9月1日 記者発表済]

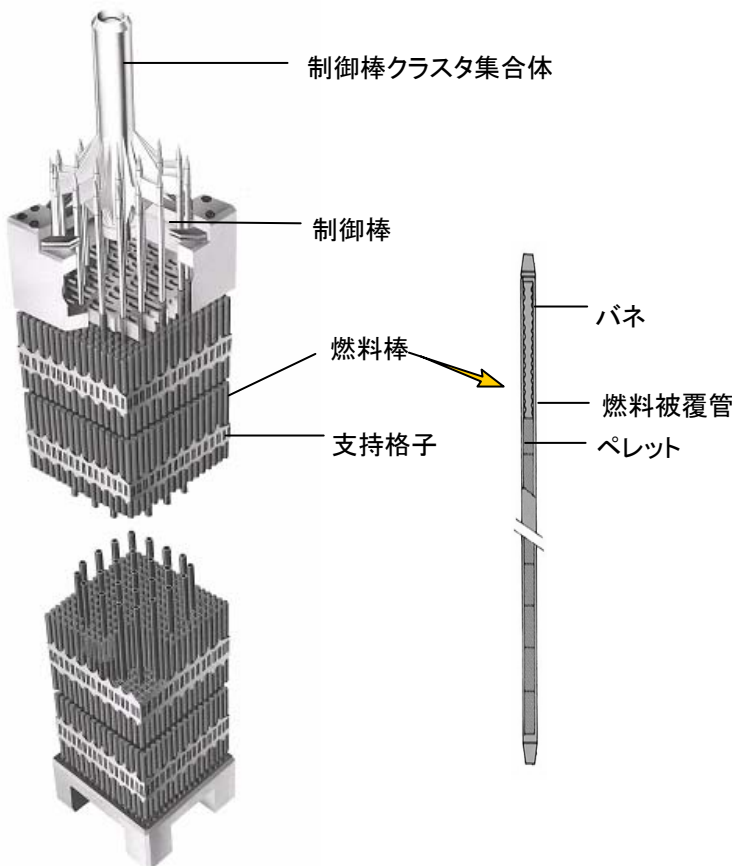
その後、監視強化して運転してきたが、1次冷却材中のヨウ素濃度(I-131)は約1~11Bq/cm³(10月19日現在)で、保安規定で定めている運転上の制限値(63,000Bq/cm³)に比べて十分低いものの、10月6日頃から希ガス濃度が増加傾向にあることから、漏えい燃料の特定調査をするため、今週中に原子炉を停止することとした。

問い合わせ先(担当:久保田)
内線2352・直通0776(20)0314

大飯発電所2号機の原子炉の停止の決定について (1次冷却材中の放射能濃度の上昇)



燃料集合体概略図



【燃料集合体の仕様】

燃料タイプ: 17×17型
 全長: 約4m
 全幅: 約20cm
 支持格子数: 9個
 燃料被覆管材質: ジルカロイ-4^{※1}または
 ジルコニウム基合金^{※2}
 燃料被覆管外径: 約10mm
 燃料被覆管肉厚: 約0.6mm
 装荷体数: 193体

※1: 最高燃焼度48,000MWd/tの燃料
 ※2: 最高燃焼度55,000MWd/tの燃料

大飯2号機 1次冷却材中のよう素濃度および希ガス濃度の推移について

